

DEBUT 首長

北海道江差町長 照井 誉之介氏



てるい・よのすけ 1984年東京都目黒区生まれ。2008年早稲田大政治経済学部卒、北海道新聞社入社。09年7月から3年間、江差支局に勤務。今年4月に退職、7月の町長選で現役首長としては全国最年少で初当選。30歳。

取材を通じ地域再生に思い 農業・漁業を核に産業振興

江差町 北海道南西部の日本海側に位置し、函館からバスで約2時間。江戸時代から明治期にかけてニシン漁や北前船の交易で繁栄し「江差の五月は江戸にもない」とうたわれた。港には沖合で座礁沈没した旧幕府軍の軍艦「開陽丸」が再現され、観光スポットになっている。

——新聞社の地元支局での勤務経験が立候補のきっかけになった。町の現状をどうみたか。

伝統が豊富で、道内最古のお祭りや民謡の王様と呼ばれる江差追分があり、それを大切に思う町民が多くいる。このような地域が成り立たないと日本全国の地方都市はすべてだめになるのではないか。この地域を何とか建て直したいと思い、町長選に立候補した。

江差町は早期健全化団体という財政破綻した夕張市の一手前の状況に陥り、行財政改革によって少しずつ改善はしていたが、産業の衰退や少子高齢化に歯止めがかかっていないと取材活動を通じて感じていた。まずは農業・漁業の一次産業をしっかり支えて、商工業や観光業に波及させていきたい。子育て支援へ医療費助成の拡大や第3子

以降の保育料の無料化など、若い人がこの町で暮らしていける環境をつくりたい。

——産業振興の取り組みは。

いろいろな産業があり総合力のある町と思っているが、核となるのは農業・漁業。例えばナマコは中国でも人気があって単価が非常に高い。アスパラガスなどは栽培に手間がかかるが、他の地方にはないハウス栽培に取り組み差別化を図っている。安心安全で美味しい江差産のブランドを広めて、高くても買っていただける消費者に届けるため、行政としてセールスに歩きたい。

——2016年には北海道新幹線が開業する。

新幹線開業への町民の期待は大きい。木古内、新函館北斗の両駅から人を呼び込むには江差町だけでは難しく、上ノ国や厚沢部、木古内、奥尻などの近隣町と連携して観光ルートを開発し、共同で発信していくことが必要。私は東京で生まれて、神奈川で育ち、就職後は札幌、江差、帯広に住んだが、江差が最も魅力的なまちと思った。このよ

うな地域を盛り上げていきたい。

——8月で30歳。若手首長が行政経験の浅さから自治体組織の運営や地元議会との関係構築に苦慮する例もみられる。

行政経験がない、江差町出身ではないということで、まずは役場組織としっかり意思疎通を図る必要がある。公約に掲げた世代ごとの懇談会を開き、職員の方々の思いやアイデアを吸い上げることで距離を縮めていく。町民とも産業別やテーマ別に対話する場を設けて、行政への参画意識を高めていきたい。議会の皆さんも私も町民に選ばれた代表。行政と議会が両輪となって動かしていかないと町が停滞する。丁寧に説明して、一緒に汗を流していくようお願いをする。選挙が終わった後は与党も野党もなく、町をよくするため是非々々で臨んでいただきたい。

(聞き手は

函館支局長 秦 栄司)